

世界の貧困考えよう

17日、行橋で「ミンダナオデー」

活動の作家や医師 支援訴え

映画、コンサートも



昨夏、フィリピン・ミンダナオ島の難民キャンプを訪れ、子どもたちに風船を配る山元眞神父（黄色のTシャツ姿）

世界の貧困問題を考える「ミンダナオデー」が、島で「ミンダナオ子ども図書館」を設立した作家松居友さんや、パレスチナ自治区など世界各地で二人と交流する山元眞神父で開かれる。

父が京築の人たちに協力を求めようと企画した。行橋市では初の開催。当日は教会に隣接する幼稚園舎で午前十一時半からバザーが開かれ、子供が京築の人たちに協力を求めようと企画した。

供服や靴、野菜、食べ物、飲み物を販売。売上金はすべてミンダナオの子どもたちに贈られる。会場の一室では松居さんが二〇〇三年七月に設立されたミンダナオ子ども図書館について紹介するとともに、記録映画の上映会もある。松居さんは午後一時から教会でコンサート「地球のステージ」を開き、自作の歌と映像、スライ

ドで貧困に苦しむ世界の子どもたちの実態を報告して世界の貧困の現状をみる。コンサートの入場料は高校生以上が千五百円、小中学生は無料だが、選。限定百人で、多い場合抽選。山元神父は「今回の催しで世界の貧困の現状を見て、私たちにできることを考えませんか」と呼び掛けている。問い合わせは教会へ09330(22)0805。